INNOVATION EXPO 第2回

アライプロバンス

1号案件　浦安に竣工

道・四季・海の「庭」で癒やし空間演出

◆アライプロバンス浦安

物流展初出展となるアライプロバンスは東京・墨田区に本拠を構え、2020年に製造業・新井鉄工所からアライプロバンスへ社名を変更。物流施設をはじめとする住宅・オフィス・商業施設の不動産事業に参入した。

同社のブースでは、葛飾北斎をモチーフとした飾り付けで来場者にアピールする。北斎は転居の多さで知られ、90回以上と言われる大多数がアライプロバンスのお膝元となる墨田区であり、チャレンジ精神がアライプロバンスのDNAにも共通することから、北斎の功績を活かした装飾を施し、他社ブースとの差別化を図る。

新井太郎専務

今回の出展では、10月28日に竣工を迎える「アライプロバンス浦安」をアピールする。同社前身の新井鉄工所・浦安工場跡地の敷地面積1万4878平方㍍に開発した、4階建て延床面積3万4598平方㍍のマルチテナント型施設。浦安市内では2008年以来となる大型施設で、市内賃貸物件では初のスロープを採用。鉄鋼団地の準工業地域特性を生かした24時間稼働が可能で、ルイ・ヴィトンのポップアップストアの設計を手掛けた著名な建築家の菅原大輔氏に設計を依頼した「道の庭」「四季の庭」「海の庭」を創出することで、物流施設では異例のグッドデザイン賞を狙う。

「道の庭」完成予定図

アライプロバンス浦安前に設置する路線バス・バス停の待合所エリアが「道の庭」だ。「アライプロバンス」名のバス停で道行く人とバスを待つ人に癒しと安らぎを与える。開発工事で発生した残土を仕上げ材として使用、洞窟のような待合いボックスと半屋外空間を覆う大屋根で構成した。

敷地内には四季折々の花で変化を楽しめる「四季の庭」を設置。枝垂れ梅、紫陽花、金木犀、ロウバイなど、色彩豊かな花が季節ごとに演出された。東京湾に面する「海の庭」は、憩いの場を提供することと、かつて東京の表玄関であった水辺をモチーフとした。南国情緒あふれるビロウヤシなどトロピカルな植物は成長すると15㍍にもなる。海上にせり出すような異国情緒あふれる展望テラスによって、眺めても楽しい表情とした。

同社はアライプロバンス浦安で、物流施設では異例の日本デザイン振興会主催「グッドデザイン賞」の獲得を目指す。

◆アライプロバンス葛西

ブースでは2号案件の「アライプロバンス葛西」プロジェクトも紹介する。東京都江戸川区東葛西9丁目に位置する江戸川工場跡地の5万7000平方㍍に2期で開発する計画。

現在は土地区画整理事業として江戸川区と検討をしている段階だが、300㍍に及ぶ縦長敷地に面した車道で通行人が安全に歩行できる遊歩道を提供するほか、緊急時に川からの救援物資の受け渡しを可能とするよう、通行帯を提供する計画もある。また、北側には約400坪の公園も設置するなど、地域貢献にも力を注ぐ。

新井太郎専務は「道路を隔てたショッピングモールとの専用通路を設けることで、物流施設で働く方の買い物などで便利にご活用いただき、リバーサイドの緑豊かな自然の中で休憩できるようなデッキ設置も構想している。施設内従業員へのホスピタリティ向上につながる」と説明する。

葛西では開発前の遊休地を一時使用の賃貸借契約で開放し、運送業者・建設業者・バス会社などに提供しており、現在若干の空きがあるという。

「当社ブースでは2つの物流施設で、裏打ちされた120年培った〝アライズム〟精神と、次の100年に向けたアライプロバンスの動きを多くの方に知っていただきたい」と新井専務は語っている。

（ブース番号A－619）